

## 論文審査の結果の要旨

氏名：中 川 勝 寛

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：COVID-19 重症肺炎に対するステロイドパルス療法の有効性についての探索的研究

審査委員：（主 査） 教授 中 村 英 樹

（副 査） 教授 権 寧 博 教授 高 山 忠 輝

教授 森 岡 一 朗

本研究の目的：coronavirus disease (COVID)-19 重症肺炎に対するステロイドパルス療法の有用性を明らかにするものである。方法：日本大学板橋病院救命救急センターにて 2020 年 4 月-10 月にステロイド加療を行った患者を対象として最終転帰とステロイドパルス療法との関連を後方視的に検討したものである。108 例の患者のうち除外基準に該当する 32 例を除き、高濃度酸素需要などの重症基準を満たす 76 例を対象とした。結果：死亡群の年齢は生存群より有意に高かったが、入院時の肺の酸素化能力を示す partial pressure of arterial oxygen/fraction of inspired oxygen (P/F)比や多臓器不全指標である sequential organ failure assessment (SOFA)スコアは有意差がなかった。また入院時との比較において、投与一週間後の P/F 比と SOFA スコアはステロイドパルス療法群での改善は無かった。一方、P/F 比は投与直前値との比較では有意差を認めた。死亡率はステロイドパルス療法投与群で有意に高く、二次感染症発症とステロイドパルス療法施行が死亡転帰の独立因子であった。またステロイドパルス療法群で二次感染症が高い傾向があり、投与一週間後には重症化マーカーLDH は低下したが、D ダイマーの上昇が観察された。結論：COVID-19 重症肺炎例にステロイドパルス療法を行うと、投与直前との比較では酸素化指標の改善が示唆されたが、臓器障害指標の改善は確認できなかった。

本論文は、COVID-19 重症肺炎に対するステロイドパルス療法の有用性を、その治療適用や二次感染の関与も含めて考察した内容であり学術的な価値が高いと判断された

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認める。

以 上

令和 6 年 2 月 28 日